

身近な防災対策!?

6月と言えば、梅雨の時期です。梅雨は、北海道と小笠原諸島を除く全国でみられる特有の気象現象で、5月から7月にかけて毎年みられる曇りや雨の多い期間のことを言います。梅雨期は大雨による災害が発生しやすい時期ですが、梅雨明け後の盛夏期に必要な農業用の水などを蓄える重要な時期でもあります。

また、北海道では梅雨期はないとされていますが、6月は曇りや雨が多くなる『蝦夷梅雨』と言われる時期になり、日々の生活で天気予報が気になる人も多いかと思えます。

さて、天気予報を見るときに、気象予報士が話す言葉に疑問を抱いたことはないでしょうか。

例えば、大雨が予想される際、テレビなどで天気予報を見るときに、気象予報士が『夜のはじめ頃から夜遅くにかけて大雨となる見込みです』と言っているのを聞いたことがあるかと思えます。だいたいの時

間の検討はつくものの、正確な時間を言える人は少ないのではないのでしょうか。

実は、このような言葉の定義は『1日の時間細分』として、気象庁で決めています。一例を示すと次のとおりです。

●夜のはじめ頃→18時から21時まで

●夜遅く→21時から24時まで

このように、天気予報や注意報・警報など気象庁が発表する各種情報は、テレビやラジオなどで提供される情報が誰にでも正確に伝わるよう、気象用語を定めています。このほかにも、天気予報などで身近に使われているさまざまな気象用語がありますので、詳しい内容については気象庁のホームページなどで確認し、知識を深めてみてはいかがでしょうか。小さいことかも知れませんが、日頃から気象情報や防災情報に留意し、いつ起こるか分からない災害に備え、『身近な防災対策』にチャレンジしてみましよう。

●問い合わせ／危機対策係 ☎ 223・224

住宅用火災警報器の点検を実施していますか？

住宅用火災警報器の設置義務化から、まもなく9年が経過します。定期的(1カ月に1度が目安)に火災警報器が鳴るかどうかテストしてみましょう。

点検方法は、本体のひもを引くものや、ボタンを押して点検するものなど機種によって異なります。取扱説明書を見て確認し、実際に火災が発生した時に、きちんと作動するようにしておきましょう。

【火災警報器の注意事項】



ピューピュー
火事です 火事です

- ①住宅用火災警報器にホコリなどが付着すると、煙を感知しづらくなります。1年に1回程度は柔らかい布で拭きとってください。
- ②定期的に点検し、電池交換をお願いします。電池切れ、異常発生時にはピーと音が鳴るものもあります。電池の寿命は、おおむね5年から10年です。
- ③メーカーの安全使用推奨期限は、おおむね10年です。使用開始から約10年が機器交換の目安です。



【問い合わせ】

厚岸消防署 予防広報係
厚岸町松葉4丁目1番地
☎52-5111

平成27年各種出動件数

【平成27年4月30日現在】

・火災発生件数	1件
・救急出動	129件
・救助出動	3件
・ドクターヘリ出動	6件

